

東京バッハ合唱団 月報

[第 581 号] 2010 年 11 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 581

November 2010

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

バッハ教会カンタータ名作選

第 105 回定期演奏会

定期演奏会が近づきました。今年は、年末ではなく年明け 1 月 9 日（日曜日）を公演日に設定しております。

新たな年を、皆様とともに明るく楽しく迎えるべく、バッハ・カンタータの中から、絶品中の絶品を選びすぐってお届けします。

[日時] 2011 年 1 月 9 日（日）14：00 開演

[会場] 石橋メモリアルホール

[演奏曲目]

カンタータ第 111 番（み心は つねに成し遂げらる）
カンタータ第 68 番（み神はこの世を かく愛したまえり）
カンタータ第 147 番（心と 日々のわざもて）
モテット BWV230（頌めよ主を 世の民こそぞりて）
（出演者等、詳細はチラシをご参照ください）

この 4 曲を貫く主題は、BWV 111 の題名の「み心は つねに成し遂げらる」でしょうか。BWV 147 の基となった聖句に「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです」とあります（ルカ 1：45、

月報前号「チラシの挿画“マリアのエリザベト訪問”参照）。

「み心」は、神の子キリストの生誕 - 受苦となって、この地上に実現します。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」BWV 68（ヨハネ 3：16）。そして讃歌 BWV 230。4 曲をもって、まさに一幅のオラトリオの趣きといえましょう。

今月号より、2 回に分けて演奏曲目の解説をお届けします。今回はカンタータ BWV 111 とモテット BWV 230。

< チケット発売中 >

[入場券] 前売 3000 円（全自由席）[当日売り 3500 円]
事務局までお申し込みください（Tel/Fax/Mail 上記）、
郵便振替用紙と同封でお送りします。

< 後援会員・団友の皆様 >

「ご招待状」を、当月報と同封にてお送りいたしました。
ご確認ください。

お仲間、ご友人等お誘い合わせの上、ご来聴いただけますよう、今からご予約ください。

《口短調ミサ曲》日本語演奏へのお誘い

< 創立 50 周年記念企画 >（2011 年 11 月公演予定）

第 105 回定期演奏会（上記）の終了翌日から、《口短調ミサ曲》の本格練習が始まります。
合唱への参加ご希望の方は、訳詞楽譜の準備がありますので、年内のご登録をおすすめします。

《口短調ミサ曲》練習開始

目白聖公会 = 2011 年 1 月 10 日（月/祭日）18：30 - 20：30。以降、毎週月曜日（JR 山手線「目白駅」下車、徒歩 5 分）
世田谷中央教会 = 1 月 15 日（土）15：30 - 17：30。以降、毎週土曜日（東急田園都市線「桜新町駅」下車、徒歩 4 分）
（見学ご希望の方は、あらかじめ事務局まで、ご一報ください）

参加登録と参加経費

《口短調》の練習参加および本番出場は、当合唱団への入団が前提です。

参加ご希望の方は、事務局までご一報ください（郵送/電話/FAX/メール、いずれでもどうぞ）。登録用紙をお送りします。
入団金（3000 円）、月額団費（5000 円、学生無料、30 歳まで半額、家族割引あり）

使用楽譜と訳詞の書き込み

ペーレンライター版ヴォーカルスコア（Bärenreiter 5102a）を各自、楽譜店等でご購入ください。

練習場および事務局に、「訳詞コピー譜」（使用譜の全ページコピー、B4 判約 120 枚、実費 1000 円）が準備してあります。
練習段階は、このコピー譜で間に合いますが、本番での使用は不可ですので、各自で使用譜に訳詞を書き込んでください。

お申し込み・お問い合わせ

東京バッハ合唱団事務局（上掲、当月報タイトル囲み内をご参照ください）

BACH-CHOR
TOKYO
50
1962-2012

カンタータ第 111 番《み心は つねに成し遂げらる》
 »Was mein Gott will, das g'scheh allzeit« BWV 111

初演：1725 年 1 月 21 日（顕現節後第 3 日曜日），ライプツィヒ。

編成：独唱 S・A・T・B，4 声部合唱，オーボエ 2，弦，通奏低音。

この日の福音書章句は，マタイ 8：1-13，信仰あつい百卒長（百人の兵卒を率いる隊長）の部下の病いに対するイエスの癒しの物語。

バッハは，教会暦の同じ日のために，内容の共通した 4 つのコラールを用いて，下記の 4 曲のカンタータを残している。

< 顕現節後第 3 日曜日用のカンタータ >

1) 1724 年 1 月 23 日

BWV 73 《生くるも死ぬるも み心のまま》

»Herr, wie du willst, so schick's mit mir«

第 1 曲（コラール合唱）…同名コラール

第 5 曲（コラール）… “ みもとを われは離れじ ”

2) 1725 年 1 月 21 日

BWV 111 《み心は つねに成し遂げらる》

»Was mein Gott will, das g'scheh allzeit«

第 1 曲（コラール合唱）…同名コラール

第 6 曲（コラール）…同名コラール

3) 1726 年 1 月 27 日

BWV 72 《みなすべて み心のまま》

»Alles nur nach Gottes Willen«

第 6 曲（コラール）… “ み心は つねに成し遂げらる ”

4) 1729 年 1 月 23 日（？）

BWV 156 《墓に 片足入れ》

»Ich steh mit einem Fuß im Grabe«

第 2 曲（アリア + コラール）… “ 慈しみにより わが悩み癒し ”

第 6 曲（コラール）… “ 生くるも死ぬるも み心のまま ”

< 使用コラール >

“ 生くるも死ぬるも み心のまま ” Herr, wie du willst, so schick's mit mir (K. Bienemann 1582)

“ みもとを われは離れじ ” Von Gott will ich nicht lassen (L. Helmbold 1563)

“ み心は つねに成し遂げらる ” Was mein Gott will, das g'scheh allzeit (Markgraf Albrecht von Brandenburg 1547)

“ 慈しみにより わが悩み癒し ” Machs mit mir, Gott, nach deiner Güt (J. H. Schein 1628)

同じ福音書章句を内容としながらも，曲想の主眼は各

曲とも少しずつ異なるが，この BWV 111 についていえば，「前進」の強い意志が伝わるカンタータである。

各楽章の歌詞から例をあげると：

1. み心は つねに成し遂げらる
2. 怖るな 心よ
3. 主の護りをえらび 信仰もて頼り み言葉のぞむ
4. いざ 雄々しく進まん
5. 信仰に 勝利得させたまえ
6. 臆さしめざれ いざ 唱えよ アーメン

（歌詞全文 <http://www.ab.auone-net.jp/~bach/bwv111.htm>）

1. 合唱（4 声部合唱，オーボエ 2，弦，通奏低音）

オーケストラの前奏で，4 度下行（ラ ミ）の力強い動機（譜例 1）が，絶え間なく各楽器で交互にくり返される。これは，コラール旋律冒頭の 4 度上行を反行したものの（譜例 2）。

譜例 1



譜例 2



合唱は，ソプラノがコラール旋律を 2 分音符で歌い，下 3 声が 4 分音符主体で追ってゆく。連続音程で進むなかで，1 フレーズごとに 1 箇所ほど，4 度上行の跳躍がはいって勢いをつける。これが神のみ心を仰ぐ者の気持ちを表すとすれば，ここから取られた器楽の 4 度下行動機は，その絶え間ない頻度と強さからしても，上から注ぎこまれる神の救いの手を象徴していないだろうか。器楽の動機につづくパッセージは，活発な 16 分音符で運ばれて，曲全体を生き生きと印象づける。

2. アリア（バス，通奏低音）

4 分の 4 拍子の通奏低音で，8 分休符によってしばしば中断されるフレーズは，怖るな 心よ のテキストの描写で，外から襲う世の力も，神の助けがあれば，怖れるにたりず，と自分につよく歌いかける。

3. レクタティーヴォ（アルト，通奏低音）

臆する心も，神はみな知り尽くしており，信仰をもって前に進み出る者を，主は導いてくださる。

4. 二重唱アリア（アルト/テノール，弦合奏，通奏低音）

冒頭合唱とともに全体の重点となるのが，この二重唱である（演奏時間は冒頭合唱より長い）。墓 や むごき死 が待っていようとも，雄々しく前進するのみ，と，2 声部交互に声をかけ合って進む。長い前奏，間奏，後奏では，第 1 ヴァイオリンが声と同様のするどい付点音

符をつづけながら、さらに華やかな 16 分音符のアルペッジョを飛びかわしてゆく。

5. レチタティーヴォ (ソプラノ, オーボエ 2, 通奏低音)

オーボエ 2 本をともなうソプラノで、勝利のあとの幸福な終りを、ここまでとは対照的にゆっくりと描きだして、アダージョのうちに消える。

6. コラール (合唱, オーボエ 2, 弦, 通奏低音)

冒頭合唱で元気な姿を示したコラールが、別の節のテクストによって、単純な 4 声体構造のうえにその全容をあらわす。神への信頼に終始する人生を、外からの力に臆することなく全うできるように、そしてこれこそがただ一つの願いなのだと、至誠の祈りをささげて終わる。

この作品から、かえりみて福音書の光景を察すれば、あの百卒長の自発的でしかも謙虚な信仰の態度が、イエスをどれほど喜ばせたのか、と思わせられる。主はこのように、われわれの生きた反応を待っているのだ、と。

モテット第 6 番 (頌めよ主を 世の民こそりて) »Lobet den Herrn, alle Heiden« BWV 230

頌めよ 主を 世の民 こそりて
讃えよ すべての 邦(くに) 民(たみ)

(詩編 117 : 1)

主の 恵み まこと
統べたもう われらを とわに
アレルヤ

(詩編 117 : 2)

このモテットの出版は、19 世紀になってからであり、成立・演奏機会ともに不明な点ばかりである。

詩編 117 篇全文 (詩編中もっとも短い) のルター訳を歌詞として、4 声部で、神への讃美をファンファーレ風の華やかな対位法によって歌いはじめ、中間に 主の恵み まこと のドルチェ部分、つづいて 4 分の 3 拍子の「アレルヤ誦」となり、高揚の気分のうちに終わる。いつどこで演奏されても晴れやかな音楽である。

<バッハのモテット>

9 世紀から 13 世紀ごろにかけて、キリスト教会では、単旋律のグレゴリオ聖歌に新しい声部をつけ加えた「オルガヌム」が多く歌われたが、ここから聖歌を定旋律としてテノール声部におき、その解釈を他声部の新しい歌詞で歌わせる「モテトウス (モテット)」が成立した。その後、もっぱら典礼用だったモテットという呼称は、世俗歌も交えてあらゆる音楽の領域にひろがり、室内での愉しみから大聖堂での祝典まで、声と楽器を自由に駆使して、おなじ「モテット」という名で、全ヨーロッパに花咲いた。海をわたったイギリスでは、英語の「アン

セム」となった。

ドイツでは、宗教改革後ルター派で「コラール・モテット」「聖句モテット」が開拓され、教会で古い伝統的モテットがラテン語で歌われるのと並行して、ドイツ語の新しいモテットも取り入れられた。とりわけヴェネツィアの複数の合唱隊席をそなえた大教会で発展した「複合唱」が、シュツトラによってドイツに移され、器楽のアンサンブルを加えた「カンタータ」となって、モテット隆盛後のプロテスタント教会音楽の結実をみることになるのである。

J. S. バッハも、教会伝来の広汎なレパートリーのモテットを受け継いで演奏した。もはや典礼にはモテットの新作は必要なくなっていたが、ときおり聖歌隊の訓練のためとか、市の名士の葬儀その他の機会に依頼されて、モテットをつくった。その需要も、バッハが就任前に予想したよりもかなり少なかったようだが、現在までに以下の作品が残されている。カンタータがバッハの死後すぐに忘れられたのに比べると、モテットは生前からひきつづき演奏され、5 曲のモテット BWV 225 - 229 は、最初の「バッハ全集」の出版開始 (1850 年) よりも半世紀近くも早い、1802-03 年に出版されている。

- 1) BWV 225 《主にむかいて歌え 新たな歌》»Singet dem Herrn ein neues Lied«
成立：1726 年 6 月 ~ 27 年 4 月の間。1727 年 5 月 12 日のアウグスト強王の誕生日に演奏？
- 2) BWV 226 《み霊 わが弱きを助く》»Der Geist hilft unser Schwachheit auf«
成立：1729 年 10 月 20 日、トーマス学校長 J. H. エルネスティの埋葬式用
- 3) BWV 227 《イエス よろこび》»Jesu meine Freude«
成立：1723 年？ 郵便局長夫人 J.M. ケースの追悼式？
- 4) BWV 228 《恐るな われなれと共にあり》»Fürchte dich nicht, ich bin bei dir«
成立：1726 年 2 月 4 日？ S. S. ヴィンクラールの追悼式？
- 5) BWV 229 《イエス 主 来ませ》»Komm, Jesu, komm«
成立：1731-32 年頃、埋葬式用？
- 6) BWV 230 《頌めよ主を 世の民こそりて》»Lobet den Herrn, alle Heiden«
成立年代不明、慶事用？

従来、これら 6 曲がバッハのモテットとされていたが、1965 年に発行された「新バッハ全集」第 1 巻 (NBA III/1) では、もう 1 曲が加えられた。

- 7) BWV 118 《おおイエス 命の光》»O Jesu Christ, meins Lebens Licht«

これまでカンタータとして分類されていた BWV 118 の第 1, 2 稿で、1746-47 年ごろ成立したものである。バッハの自筆譜に「モテット」と記されているのだが、オブリガート楽器が用いられるなどで、実質的にはカンタ

ータとの中間と見られる。バッハの指定どおり、新バッハ全集には「モテット」として収録されたが、1楽章で成り立つカンタータの位置（ブライトコプフ社カンタータ全集中）に保っていても差し支えはないだろう。

さらに、シュミーターの作品番号（BWV）には、もう2作のモテットがある。

BWV 231《讚美 誉れ 栄光》»Sei Lob und Preis mit Ehren«

成立：1725年1月1日以降

BWV Anh. 159《汝われを祝せずば われ汝を去らしめず》»Ich lasse dich nicht, du segnest mich denn«

成立：ヴァイマル，1713年9月以前

と、バッハの作品とされるものはここまでだが、モテットはみな、比較的小品なので、今後も何かにまぎれた形で発見されるかもしれない。楽しみでもある。

* * * * *

新刊のご紹介

森泉朋子・編訳 『ドイツ詩を読む愉しみ』

大村 恵美子

著者のお姉さま（ソプラノ団員の菅原昌子さん）から手渡されたこの本に、その日の夜はまるまる奪われて、熱帯夜のまっただ中にも忘れさせてもらえた。

むかしから私は、親しい人への誕生日祝いに、手書きの詩集（自作ではなく、内外の有名な詩から感銘を得たものを、花束のように勝手に選んで）をプレゼントしてきた。この新刊を読みながら、さっそく、誰と誰の誕生日に贈らせていただこうかと、心がせわしなく動いた。とてもすなおな感じに訳された50篇の詩に、彼女自身の、これまた自然態で好感のもてるコメントが付されている。「私が会いたかったのは、まさにこんな詩集なのです」とうなづきながら、一挙に読みとおしてしまった。

私がゲーテに大きく影響されたのは、バッハをライフワークにしたのと似たような傾向からだろうが、ストラズブルに留学して、ゲーテのフリーデリケとの初恋の地、ゼーゼンハイム（今はフランス領セサンアム）に2度ほど遠足し、感覚的にもゲーテという人物を強く受け入れてしまったからかもしれない。バッハの場合も、その少年時代を過ごしたテューリンゲン地方、とくにオールドルフなどに2回、3回と訪れてからというもの、いっそう身近に血の通ったような親しみとなった。

森泉さんも、留学して、詩人たちゆかりの地で呼吸することで、このように人なつこいような、すばらしい本が出来あがったのであろう。そして、詩人たちの心にむかっての暖かい洞察が、読むものに、彼女の品性の気高さ、奥深さを伝えてくれる。50篇のなかには私の初めて出会うものも当然多くあり、それらも、訳のおかげで、心にするりと入りこんでくれた。

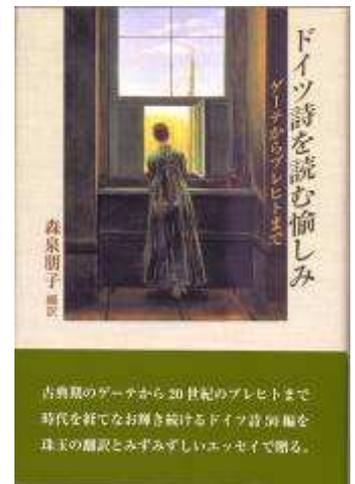
メーリケの「春だ」（130頁）は、萬葉集のなかで私の最愛のもの、志貴皇子「いわはしる垂水のうえのさわらびの……」に似ているし、東西のちがいははっきりしていることもあって、訳された詩に喜びをおぼえた。リートのリサイタルで、思いがけなくこの詩がアンコールなどに歌われると、しあわせに満たされながら帰途につけるものである。

個人的なことだが、偶然にも、まるで私の心を予想したかのように、まっ白の菜紐（しおりひも）がこのページにはさまれていた。そうだ、今後はこの本が座右にあって、この白いリボンが活躍するようになるのかもしれない、などという気がふとよぎった。

すべての芸術の場合と同じく、現代詩にいたると、なんとも心が痛み、もうゲーテやバッハは人類史上には永遠に失われてしまったのか、と哀悼的な気になる。それでも私たちは、たとえばこの本のように、人間のつづらな心を取り戻させ、まだまだそのまま世に埋もれている宝庫 バッハのカンタータ然りを、勇気をもって伝えてゆかなければならない。森泉さん、ありがとう！古典を敬愛し、人間の文化に信頼をとりもどすのは、経済などよりも、現下のいっそう緊急な努力目標でもありましょう。

『ドイツ詩を読む愉しみ
ゲーテからブレヒトまで』2010年7月、鳥影社刊
（1600円）日本図書館協会
選定図書。

編訳者：森泉朋子（もり
いずみ・ともこ）、1982年恵
泉女学園高等学校卒業。
1988年上智大学ドイツ文学
科卒業。1990年東京外国語
大学大学院修士課程修了。
現在、東京工業大学、およ
び拓殖大学非常勤講師。



* * * * *

<クリスマス演奏会> お知らせ

- ・モテット BWV 230
- ・カンタータ BWV 147（抜粋）
- ・クリスマス讃美歌

日時：12月5日（日）開演 14:00（終了 15:00）

会場：世田谷平安教会（世田谷区下馬 2 - 41 - 5）

出演：山田恵美子（フルート）、内山亜希（ピアノ）
東京バッハ合唱団

主催：日本キリスト教団 世田谷平安教会

入場無料（ただし定員あり。当団事務局までお問い合わせください）